

2024年4月1日

学生・教職員各位

生成AIの教学面の取り扱いについて

洗足学園音楽大学

1. 本学の指針

近年クローズアップされている生成AIですが、その精度は日々向上し、できることの範囲も急速に広がっています。教育現場におけるその使用につきましては、様々な懸念が浮かび上がってきています。しかしながら、生成AIを利用するという流れは止めることができませんし、むしろ有効に利用することによって、学生の学習の助けとすることが大切だと考えられます。

そのためにも、今現在、私たち教員が行っている人間的つながりを大切にしながら音楽教育をぶれずに継続し、さらに充実させていくことこそ大切だと考えます。

学生一人ひとりが自らの個性や能力を信じ、それを伸ばすための創造性や表現力を高めることに喜びを見出し、様々な経験を超越して成長を実感できるようになった時、学生自らが、生成AIをはじめとする新しい技術を適正に利用できたと言えるのです。

将来に向けて、さまざまな新しい技術が生まれ、教育現場にも大きな変化をもたらすことと想定されますが、本学では、そのような価値観の変化をネガティブにとらえるのではなく、今までやってきた我々の教育をさらに充実させ高めていくことのきっかけにしていきたいと考えています。

2. 指針策定に至った背景

生成AIを含むAIの利活用は、利便性や生産性の向上、さらには人間の様々な能力をさらに発揮することを可能とするなど、経済社会を前向きに変えるポテンシャルがあります。一方で、AIの信頼性や誤用・悪用などの懸念やリスクも指摘されており、しっかりと懸念やリスクへの対応とバランスを取りながら進めていく必要があるとされています。

教育分野においては、生成AIを適切に利活用することで、学修効果が上がり、また教職員の業務効率化を図ることができるなどの効果が期待される反面、レポート等の作成に生成AIのみが使われること等に対する懸念が指摘されています。こうした背景を踏まえ、本学では、生成AIの教学面の取扱いに関する指針を策定いたします。

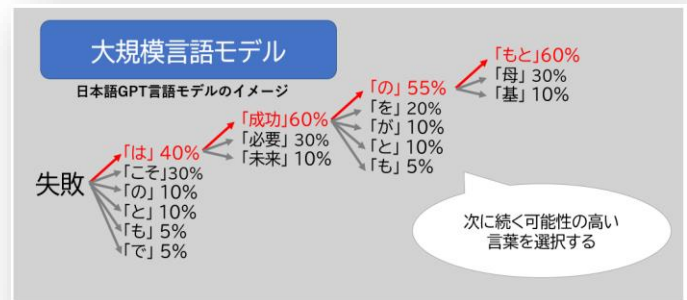
3. 利用にあたっての注意点

生成AIの仕組みや注意点をよく理解して利用しましょう。なお、今後の技術の進歩や社会情勢の変化に応じて、本内容は継続的に見直しを行います。その詳細については、SENZOKUポータルにて随時お知らせいたします。

仕組み

「生成AI」とは:学習したデータを元に、自動的にコンテンツを生成してくれるAIを指します。生成できるコンテンツの種類には、画像、文章、音楽、図面、プログラミングのコードなど、あらゆる種類があります。

文章を作る生成AIの先駆け「GPT」とは:2017年に米Googleが開発した「Transformer」という自然言語処理モデル(図)に基づいて米オープンAI社が開発した言語生成AIです。言葉を紡ぎだせる仕組みは、ある言葉の次にくる確率が最も高そうな言葉を統計的に推論しています。言葉の後ろにくる可能性の高い言葉をつなげているだけで、言葉の意味を理解しているわけではなく、感情もありません。また、アウトプットの正確性は担保されていません。



主な注意点

まことしやかにウソをつく	事実と全く異なる情報を、まるで答えであるかのように回答することがあります。文章の意味を理解しているというより「確率的に確からしい文章」を作成しているからです。
最新情報を持っていない	インターネット上の膨大なデータに基づき学習していますが、そのデータの中には古いデータや誤ったデータが含まれている可能性があります。そのため、正確でない回答が生成されることがあります。 例:GPTが学習したのは、2021年9月頃まで。それ以降の情報については回答ができません。
機密性にリスクがある	入力情報は、学習データとしてAIの回答に利用されるため、個人情報等の秘密情報の入力はいけません。AIの種類によっては回避策(オプトアウト)があります。
長期記憶ができない	例:ChatGPTには記憶力がないため、応答を重ねると最初の質問は忘れてしまいます。
全責任は利用者が負う	出力されたものに著作物が含まれていた場合など、気が付かず利用して違法行為とみなされることがあります。差別的な表現や犯罪に加担しうる情報が含まれていることもあります。AIが作成した文章や内容について、部分的に利用したとしても、そのコンテンツに対する全責任は利用者が負うこととなります。

AIが出した成果物が“正しい”のか、チェックするのは人間の責任です。自らの成果につながられるよう、生成AIが出した結果を適切に評価するようにしましょう。

4. 禁止行為

- (1) 生成AIが出力した情報をオリジナルと偽ること
- (2) 生成AIが出力した情報をそのまま課題やレポート、試験に利用すること
- (3) 生成AIが出力した情報についての事実確認・裏付けを行わず引用すること

これらの行為は、情報倫理上問題のある行為として、洗足学園音楽大学の規程に基づき懲戒処分の対象となることがあります。

5. 授業での活用にあたって

【学生向け】

- (1) 学修は自ら体験、考えたことに基づいてなされるものであり、生成AIが出力したものをそのまま利用することでは学力向上につながりません。
- (2) 生成AIの利用可否、また利用範囲については、授業担当教員によって考え方は異なります。必ず、授業担当教員の指示に従ってください。

【教員向け】

- (1) 学修は主体的に学ぶことが本質であり、生成AIの出力をそのまま用いるなど、学生自らの手によらずにレポート等の成果物を作成することは、学生自身の学びを深めることにつながりません。
- (2) 生成AIを利用させる場合、その真偽を確かめることを求めるとともに、最終的な成果物についてはAIとのやりとりの過程を参考資料として提出させることや、引用・参考文献などを明示させるのも一案です。
- (3) レポートや課題、論文の審査に関しては、生成AIが利用される可能性を十分に認識した上で、様々な方法を組み合わせて、出題方法や評価方法の工夫をお願いいたします。

(参考例) : ChatGPTが得意なこと

生成AIにも得意、不得意があります。自らの考えを生み出す過程において、生成AIが得意なことであれば生成AIを活用し、出力された結果を基にさらに吟味することで、効率や質を上げることが期待されます。以下は、ほんの一例ですが参考にしてみてください。

	効率アップ例	質のアップ例
添削、校正、翻訳	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の資料を翻訳する ・プログラムノートの誤字を修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな日本語にする
要約する	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報を要約して、1つの文章にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・大量のアンケート回答+から、傾向を分析する ・専門知識が必要な文章をかみ砕く
アイデアの壁打ち	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアのたたき台を数多く出す ・方向性が決まっているが、さらにアイデアを出してもらう ・歌詞を”エモく”してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の死角を指摘する ・ブレインストーミングの相手となる
リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・客層から流行を知る ・ある業界の大まかな動向を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らないことを教えてもらう ・一般的な傾向を知る
創作、対話	<ul style="list-style-type: none"> ・形式の決まった書類を書く(冠婚葬祭のスピーチ、コンサートのお礼等の原案) ・簡単なカスタマーサポートをする ・商品説明文をかく ・旅行のプランニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習の例題を繰り返し出す ・特定の人格になりきって対話する ・(喧嘩した時など)中立的、客観的な解決策を示してもらう ・中学生でもわかるたとえ話を使って説明してもらう

参考： 文部科学省:大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて(周知)
 文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」の作成について(通知)